



高德寺だより

令和3年7月7日 NO. 145

曹洞宗 高德寺

TEL 0238-42-2859



ちようげつこううん

釣月耕雲

はちじゅうはちねん

八十八年

みかくしょうじ

未覚生死

めいふこうせん

迷赴黄泉



■ 高德寺檀信徒の皆さま今般、5月20日に遷化した高德寺二十八世泰雄大和尚密葬儀には何かとご多用の中、ご会葬頂きましたことに厚く御礼申し上げます。生前のご厚誼、また住職としてこれまで支えて頂きましたこと誠に有難く心より感謝申し上げます。突然の訃報に驚かれた方も多し事と存じますが、今年初めより脳内疾患の症状が重くなり専門的な治療のため転院し、加療を継続して参りましたが5月初旬より衰弱が進み食事が出来なくなりました。コロナ禍で面会が制限されたものの、主治医に強くお願いし何とか支えてきましたが最後は家族に見守られ、まるで静かに眠るように永眠いたしました。とても穏やかで安らかな最期でありました。臨終間際に口元が動き言葉を発しました。感謝とこれからの高德寺を託す言葉だと感じました。あれから早いもので本日、無事四十九日忌を迎えることとなりました。今後も高德寺を支えて頂きますよう宜しくお願い申し上げます。さて、上に記した言葉は遺偈(ゆいげ)と申しまして生前に和尚としての生涯を振り返り漢詩にしたため遺していた言葉でありま

す。「月に釣り、雲を耕す 八十八年。未だ生死を覚らず、迷いながら黄泉に赴く」平たく申せば、88年の生涯を掛けて仏道修行に精進して来たものの未だに覚りには到達叶わず、迷いながら黄泉の旅路につく思いだ。と読めます。しかし、その先にも修行の決意を感じさせる言葉であります。つまりは人間迷いもありさまざま思いもあるがその時々境遇を受け入れながら修行に精進していくことが肝要である。というメッセージだと感じます。皆さんも何卒ご一考あれ。

臨終法要・密葬・本堂の様子

今般の法要は密葬儀（火葬式）までの法要を勤める事となりました。大事な松明（たいまつ）の儀式であるいわゆる本葬儀（ほんそうぎ）は後日、準備期間を置いての取組みとなります。遺言書には色々と希望を書き残したものもありますので、可能な限りそれに準じて進めて参りたいと思います。本葬については出来るだけ早い時期にと記してありますので来年の命日までに1周忌と併せて出来ればと思案しております。さて、これまでに檀信徒の皆さま地域の皆さまそして、関係各位に弔問賜り500名を超える方々となりました。また護持会から見事なコチョウラン、他にもお供物、弔電等多数賜りました。併せて不行き届きな点何卒ご容赦の程お願い申し上げます。



◎写真は本堂一角に設けた思い出コーナーです。泰雄大和尚生前の写真と遺品等を展示いたしました。ご会葬の方々にも見て頂きたく準備したのですが、密葬当日はあまりにも多い参列でしたので立ち止まることが出来ず目に触れなかった方も多かったです。子供たちと映ったにこやかなスナップ写真の笑顔が印象的です。今般のコロナ禍の状況ではありましたが、3月に永平寺に修行に上がったばかりの長男・風雅が特別に許可を頂き戻ることが出来、また密葬の中で弔辞を読んでくれました。本来であれば多くの方々にお席を準備して参列いただくところですが、人数制限となり大変無念な思いでした。本葬ではコロナワクチンが行き届き多くの方にご参列叶うよう期待しております。お盆やお彼岸などの節目節目にご焼香賜りますようお願い申し上げます。



◎大橋・瑞光寺様を御導師に枕経を勤めるご寺院様
お釈迦様が残したお言葉が御経の遺教^{ゆいきょうぎょう}経をお読みします



◎護持会を代表し理事様より献花頂いた
見事なコチョウラン（今も綺麗に咲いています）



◎密葬（火葬式）の御導師は御本寺である米沢市・林泉寺様
にお勤め頂きました。高徳寺はその末寺筆頭であります



◎孫代表として弔辞を述べる長男・風雅。特別に
本山より許可を頂き高徳寺へ。愛情頂いたお礼を聴き
大和尚様も喜んでくれたものと拝察いたします

◎梅花講の皆様にも、出棺前に慣れ親しんだ御詠歌
をお唱え頂きました。



◎参列の皆さんで共に生前の在りし日を偲び、追弔御
和讃を奉詠。限られた参列になったのが心残りです。

～泰雄大和尚から

皆さんへ最後のお言葉です～



◎生前、元気な頃に残したものの中に檀信徒の皆さんへ向けた言葉が残ってありました。書面にてご紹介したいと思います。誰よりもお寺の事を気にかけて人でしたのでその遺志を継ぎ勤めて参ります。皆さま、これからも何卒よろしくお願ひ申し上げます。合掌

檀家の皆さん、長い間ありがとうございました。
子(孫)に、お礼をお祈りしています。
高徳寺を支えて下さい。信心を大切に

ご案内と お知らせ

◎今般の大和尚遷化に伴いお寺として新盆を迎えることとなります。例年ですと、8月13日～16日までお檀家周りに伺っておりますが、今年は諸般の都合により新盆の仏さまのお宅のみ訪問させていただき、各地区のお檀家さんへの棚経はお休みを頂きます。また、昨年来のコロナ禍とお寺の都合に配慮されご法事を中々計画できない方もいらっしゃるとお聞きします。そこで別紙の如く下記によりお盆に計画をいたしましたので都合のつく方はご一報下さるようご案内申し上げます。(秋にも計画の予定)

合同法事のご案内

日 時： 8月14日(土) 15日(日)

時 間： 両日とも午後1時30分より～ 高徳寺本堂にて

申し込み： 8月10日(火)までお電話下さい。0238-42-2859

その他：塔婆代1本につき千円お願ひします。

※本年の合掌祭も事情によりお休み頂きます。

風雅からじいちゃんへの弔辞

◎長男・風雅は大和尚と同じ駒澤大学に進んだこともあり、お互い身近な存在で成人してからは良くお酒を酌み交わし帰省するのを楽しみにしておりました。また、永平寺から修行を終えて帰ってくるのを大変心待ちにしておりました。密葬に参列した方の反響も大きかったので、せん越ですが皆さんにもご紹介させていただきます。

2月下旬、私はオンラインにて久しぶりに面会した少しやつれたじいちゃんの姿を最後に去る3月3日深山幽谷、大本山永平寺の山門をくぐりました。心臓が破裂しそうな緊張の毎日に少しずつ慣れ、振り返ると約80日。突然の訃報の知らせを受け只々驚き、この日がまさかこんなに早く訪れるなんて、私は夢にも思っていませんでした。

特別に許可をもらい足早にお山を背にしながら電車で揺られ、久しぶりに一人ぼんやり車窓に移る景色に、何故か子どもの頃の思い出が重なり私は何度も涙をこらえました。

私にとっての泰雄大和尚様は、両親の呼ぶ「方丈さん」でも檀家さんの呼ぶ「先生」でもなく、生まれた時からずっと、ずっと「じいちゃん」でした。小さい頃はなぜ血縁関係がないのか良く分からなく、どうしてお寺なのに檀家さんに「先生」と呼ばれるのかも理解できなかつたけれども、私にとっては何でも話せる粋なじいちゃんに変わりありませんでした。

じいちゃんがお酒を飲むその姿は、きっと至福の時間のように家族で囲む食卓では、いつも目を細め、それはとてもご機嫌でしたね。そして話題も豊富で物知り博士に見えました。家族の誕生日会ではいつも私たち兄弟に、それぞれ大きなお小遣いをくれるので、何か両親も恐縮しているように見えました。そして残していたじいちゃんのアルバムには、私たち兄弟と一緒に映るじいちゃんの写真がたくさんファイリングされ、人知れず大事にしてくれたことを本当に愛しく思え、心から感謝しております。

私がじいちゃんと同じ駒澤大学に進学したことを心から祝福し、やがて成人し帰省すると、一緒に酌み交わすのを楽しみに「一緒に飲もうか」と夜遅くまで話し込み、嬉しそうに古き良き時代の東京ノスタルジーに浸っていましたね。

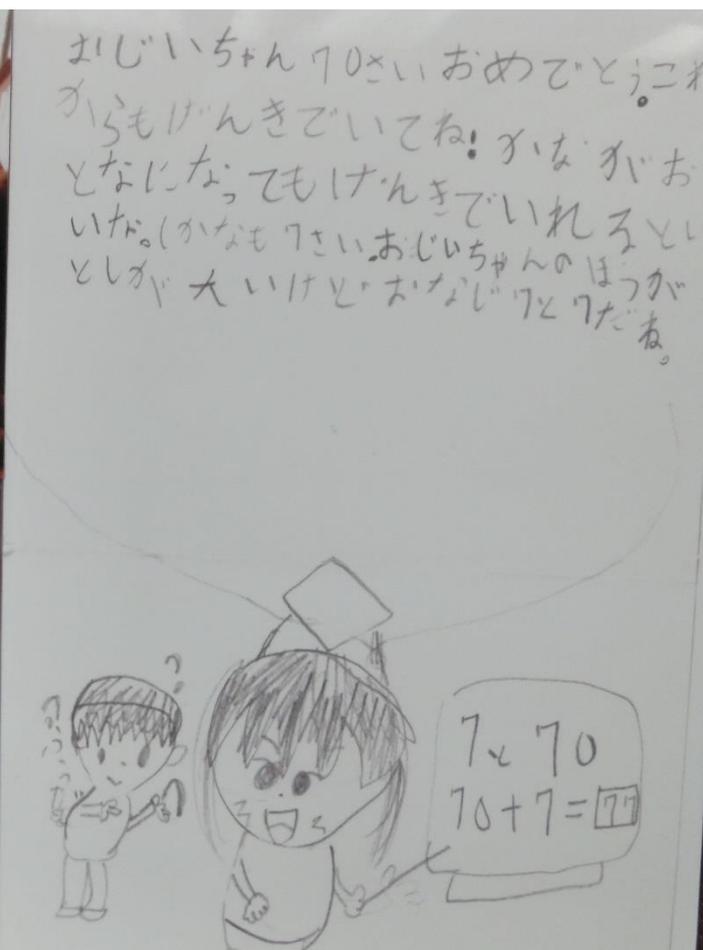
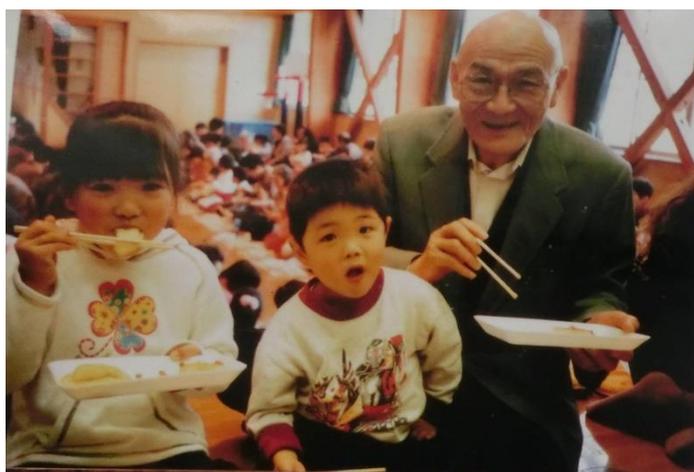
目を瞑ると、色々な思い出が回想され、私の名を呼ぶ声や、たまにポンと頭をなでてくれた時の大きな手の感触、そしてあの笑顔が今、鮮やかに蘇り、私たち兄弟3人の笑顔と共にまるで昨日の事のように感じます。でも、じいちゃん、せめて修行を終えて高德寺に帰り、一緒に祝杯を挙げるまで元気でいて欲しかったと思うと本当に切ない気持ちで一杯になります。

私はまた明日から、静寂の永平寺に一人戻ります。後悔の無いよう吸収できる物をすべて身につけてまたこの故郷へ帰ってまいります。来年は晋山式や法戦式も予定されていますのでそれまで、お坊さんらしい姿を見せられるよう修行に励みたいと思います。どうか修行の無事を仏の世界より見守っててください。

コロナ禍の最中、姉と弟は都市部に住んでいることにより、泣く泣く参列を断念したので、私が兄弟を代表し最後に心からお礼を言います。血は繋がってなかったけれど実の孫として、今日まで可愛がってくれたこと本当に感謝しております。ありがとうございました。さみしく悲しい気持ちはすぐには消えないと思うけど、これまでもこれからも本当のじいちゃんとして心の中で生き続けると思うし、高德寺の歴史を継承し歴代住職第 28 世として永く供養して参りたいと思います。どうか安らかに安心してお休みください。そして、また、どこかでひっそりと大好きなお酒を一緒に飲みましょう。

じいちゃん、大好きだよ。

孫代表 風雅より



◎子供たちが幼稚園の頃の祖父母参観での様子とホームパーティーのスナップ写真です。右は長女が大和尚の誕生日に送ったメッセージ。子供らしい表現と発想がとてもユニークです。